つながる・ひろがる交流会～高針学区～

日時：令和元年 12 月 23 日(月)
午後 2 時～3 時 30 分
場所：名東区役所 講堂

テーマ 「伝統文化を守る活動　高針の歴史と伝統文化を伝える行事」

1　概要

＜高針学区の特色について＞

中心部は区画整理されておらず、南の中馬街道に宿場町ができて人が住むようになったため、昔の地形がそのまま残っている。人口は約 5,000 人、世帯数は約 3,000 戸で、町内会加入率は 50%程度と低い。学区境にはマンションが多く、町内会非加入の人が多い。

町内会として昔からの「島」がそのまま残っている。北島は 500、新屋敷は 300、東古谷は 300、西古谷は 80 世帯。世帯数が大きく違うため、町内会対抗の運動会は調整が大変。

＜高針フェスタについて＞

平成 21 年に名古屋都市センターから声がかかり、まちづくりびと養成講座で 1 年近く地域の歴史や伝統についての勉強会を行い、その経験を活かして高針フェスタを立ち上げた。

バザーや高針村検定、高針わくわく探検隊などから始まり、次第に歴史・伝統のパネル展示や棒の手・神楽の展示など様々な事業を行うようになった。高針村検定は当初は約 100 人が参加したが、問題が難しすぎたため、現在では「高針に正式な信号はいくつあるか」など、答えやすい問題に変更している。今は高針村ふるさとまつりで細々とやっているが、毎年苦労して問題を作っている。高牟神社の倉庫には御馬塔の羽根が保管してあり、年に 1 度虫干ししている。羽根は希少なもので、昔は取り合いで町内同士で喧嘩が起こったという。

高針フェスタは第 3 回が最盛期だったかと思う。当時の参加者はのべ 300 人程、スタッフはのべ 90 人程で学区のほぼ全ての団体が参加してくれた。企画内容は良かったが、参加団体が毎年増えていき規模が大きくなりすぎたため、平成 25 年を最後に立ち消えた。

高針フェスタの企画のうち、今も残っているのがおこしもん作り。コミセンで 200 人くらいに参加いただき今でも盛大に行っている。またお月見どろぼうも残っており、学区は警備などを担っている。

＜高齢者の福祉活動について＞

学区でいま力を入れているのは高齢者の福祉活動。国登録有形文化財の蓮教寺でひまわり昼食会やさくらカフェを行っている。またお茶会や体操、ヨガ、モーニングカフェ、木曜サロンなど、現在 6 つのサロンがあり、種類の多さは先進的だと思っている。

地域ささえあい運動は今年 10 月からはじまったばかりの活動で、スタッフが週 2 回コミセンのロビーで待機している。なかなか声がかからないが、他の学区が後に続くためにも、営業活動を頑張って事業を成功させていきたい。

＜スポーツ行事について＞

スポーツ活動に力を入れており、ソフトバレーボールやソフトボール、レクインディアカ、グラウンドゴルフ、運動会は大会や練習をしっかり行っている。

＜まとめ＞

高針学区の学区境の地域は転入転出が多く、地域への帰属意識が高くない状況だったことから、歴史を学び、地域に参加してほしいと高針フェスタを開始した。現在は終了しているが、この経験は「やればできる」という経験として学区の財産になっている。

3　意見交換の主なやりとり

＜質疑応答＞

○（学区区政委員）高齢者福祉サロンの窓口はどこか。ランニングコストと初期費用は。

→（高針学区連協会長）導入時は、専用携帯を用意し周知チラシを作った。また個人的に口コミで広めている。高齢者福祉サロンは、民生とは関係がないが、スタッフには民生委員が個人としてやっている人が多い。

→（社協地域福祉推進スタッフ）現在、区内の高齢者福祉サロンは 78 ある。最低限かかるコストは会場費。開設や運営にあたり補助金が出るので、社協にご相談を。

→（社協事務局長）地域ささえあい運動を現在実施しているのは、高針、梅森坂、藤が丘、引山、北一社の 5 学区。地域の方へ声掛けして案内することが大切。

○（学区連協会長）学区の周辺と中心部で意識が違うという話があったが、周辺の方はどのように地域活動に参加しているのか。

→(高針学区連協会長)そもそも町内会に入っていないので、学区からの声が届かない。子ども会に入っていれば親同士のつながりはあるが、その比率は少ない。

＜ご意見＞

○（学区区政副委員長）御馬塔は神明社の資料館にも 13 組あり、今でも飾られている。乾燥させて保管しているが、自分たちの年代になると、組み立て方はもう分からない。

○（学区連協会長）御馬塔の歴史は古く、第 12 代天皇の時期の記録にも残っているほど。棒の手は農民の自衛手段だった。中馬街道は 69 ある中山道のうちの 1 つで、主に塩を運んだという。高い原野を開墾したことから、高“ばり”という。

○（学区区政委員）学区の行事では、元気な人は集まれるが足が悪い人などは難しい。気軽に声を掛けられる体制・仕組み作りが大事。

○（コミュニティサポーター）12 月のさくらカフェに実際に参加させていただき、地域の方同士がコミュニケーションを取れる場所を作っていると感じた。棒の手の保存会の活動では、文化の面でも多世代交流の面でも素晴らしい取り組み。

4　まとめ

(高針学区連協会長) 本日は過去の事例発表ののち、現在頑張っていることを紹介したが、過去の経験が現在に活きていると感じる。地域の活動を楽しんでやってくれている人たちの力を借りて、これからも地域活動や伝統を活かしたまちづくりを進めて行きたい。

(名東区長) 発表内容、地域の歴史の話ともに興味深い話だった。今回の「事業を継続できなかった」というお話は貴重。

名東区は新しい区だが、寺や歴史が少なくても、自然や人のつながりの場などの特徴を活かし、つながり作りをしていくことはできる。高齢者サロンや福祉、スポーツなどがその例。災害時等、万が一のことを考えると、町内会・自治会のつながりは非常に大事。まずは地域住民に興味をもってもらうことから始め、続けていけると良いかと思う。